

ぶらり

なんたん ⑫

あしう 美山 芦生山の家

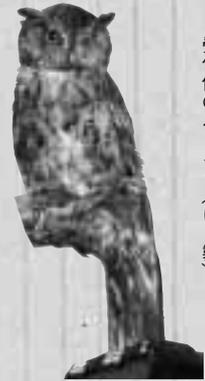
秘境の森が育んだ、自然の息吹を感じる家

美山のかやぶきの里を越え、唐戸溪谷の山あいを抜けると由良川の清流がますます透明度を増していきます。

芦生の森は、四千鈔を超える広大な京都大学の研究林で、絶滅が心配されるアシウテンナンショウなどの学術上貴重な植物やツキノワグマなどの動物が生息しています。世界遺産への登録も検討されたほど、大自然のエネルギーが満ちあふれた空間です。

この芦生の森の玄関口にたたく「芦生山の家」は、平成十三年に美山の木材を使って改装され、木の香りと優しさが漂う落ち着いた山小屋風の宿泊施設です。エントラン

◀受付係のふくろう(はく製)



スホールから二階へと続く階段や廊下には、原生林の動物や風景の写真が展示され、訪れる人々の心を芦生の森へと誘います。

客室は、畳が落ち着く和室と、木製二段ベッドの洋室があり、いずれも清潔感と温かさが伝わってきます。

食事は、芦生なめこや美山の平飼地鶏の料理など地元産の食材が味わえます。大人一泊二食付で七、三五〇円。

原生林の散策や写真撮影を



▲木の香りが広がるくつろぎの空間

目的に訪れる方の利用が多く、散策ツアーやガイドも事前に電話で予約できます。(入林に際しては、芦生研究林事務所手続きが必要です)

取材で初めて訪れた芦生の雄大さには圧倒されました。そして、芦生山の家館長の今井崇さんにお話を伺う中で、この自然の宝庫を大切に守り育てて、後世へ引き継いでいこうとされる、この地で暮らす人々の懸命な思いが伝わってきました。今井さんは、有限会社芦生の里(以前の芦生なめこ生産組合)の取締役であり、きのこや山菜の食品加工、美山の木材家具づくりなどにも携わっておられます。冬期は一面が雪に覆われる芦生ですが、春先から晩秋にかけては季節ごとの野草観察や散策に、身近に存在する秘境の森を訪れてみてはいかがでしょうか。

ぶらり案内



館長 今井 崇さん



◀施設全景

美山 芦生山の家

TEL (0771) 77-0290 FAX (0771) 77-0368

- ◆住所：南丹市美山町芦生須後13番地
- ◆交通：府道19号線を美山方面へ。上平屋を右折(国道162号へ)し、安掛を左折(府道38号線へ)。かやぶきの里を越えて車で約30分。※休館日、利用料金、設備など詳しいことはお問い合わせください。